

# 山形県歯科技工士会会報

R1・12

## 中央・村山地区共催学術講習会

### 『今後のデジタル化の波に備えて 保険認可主体の CAD/CAM システムの実演と紹介』

令和元年7月23日(日)、山形テルサを会場に中央・村山地区共催学術講演会が開催された。

デンタルネットコミュニティ株式会社から、伊藤隆文氏と和田克巳氏にお越しいただき、同社で販売しているデジタルプロセス株式会社の「DORA」と「WAXY」について実演と紹介をして頂いた。

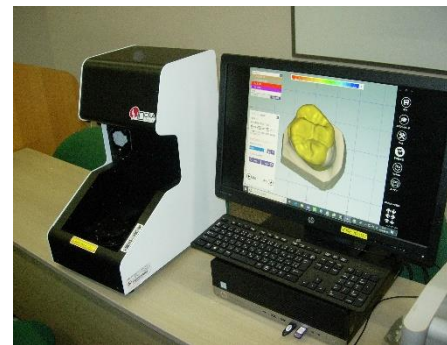
保険のクラウン・インレー・ブリッジ等のワックスパターン製作に積極的にCAD/CAMを使用する事によって、今まで手作業で掛かっていた時間を大幅に短縮することが出来、空いた時間に新たな仕事を増やせる事で収入 up に繋げることが出来るという事であった。

ハイブリッドレジンのCAD/CAM冠やPMMA、オプション追加でジルコニアにも対応しているとの事で、オールマイティーに使えるシステム機器になっている。特に、ハイブリッドレジンのCAD/CAM冠に関しては、金銀パラジウム合金の値上がりで保険診療クラウンの27%という製作率になってきているという事実も、今

後CAD/CAM冠が加速度的にニーズが高まるのではないかと感じた。価格も500万円程度で始められるのもこれから普及が広がるのではないかと思った。実演では、実際に模型をスキャンし、PCで設計をする作業を見せて頂いた。スキャンスピードも速く、追加スキャンしても1分ぐらいで終わっていた。スキャンした画像もかなり綺麗で見やすく、操作も慣れてしまえば細かい設計も可能で、自由度の大きい設計が出来るようであった。

ミリングの機械も割とコンパクトで、動作も滑らかで、何より出来上がったワックスパターンがきめ細かく、適合精度もかなり良いものであった。

歯科器材もこれからデジタル化が進んでいく中、知っておいて損はないシステムであると思った。





## 《やまがた健康フェア》



やまがた健康フェアが山形ビッグウイングを会場に10月19日(土)・20日(日)の2日間開催された。

山形県歯科技工士会も山形県歯科医師会・山形県歯科衛生士会と共に参加させて頂いた。会場には様々な団体や企業・学校などがブースを構え、歯科技工士会でもその一角で石膏人形製作体験と歯科技工製作物の展示を行った。石膏人形製作体験では、印象材で作った動物やキャラクターの人形の型に容器に石膏と水を入れてシェイクするだけで出来る石膏泥を注ぎ入れて作る石膏人形を来場者に作ってもらった。小さい子供たちがお気に入りの人形を選んで石膏入りの容器を振るときは一生懸命に楽しそうに作っていた。出来上がった人形を渡すと、嬉しそうに受け取ってくれた。

技工製作物の展示も興味を示す方々が訪れ、様々な質問をしていただき、色々説明をしながら話をさせて頂くことが出来た。

19日(土)には歯科関係のプレゼンテーションがあり、技工士会からは伊藤専務が歯科技工士会を紹介するDVDを流しながら歯科技工士の仕事や役割などを説明して頂いた。



今回は、山形県歯科技工士会ののぼり旗を立てて、日本歯科技工士会のパンフレットも配布する事が出来たので、歯科技工士という職業を知って戴けたのではないかと思います。



## ※ 山形県歯科技工士会女性部研修会 ※

### 『いびきに誘われて』

池田由美(庄内)



11月10日(日)に文翔館でおこなわれた、技工士会女性部の研修会に参加してきました。演題は「閉塞型睡眠時無呼吸症(OSAS)の歯科的治療と歯科技工士の役割」。はい、ウチのダンナさんもお酒を飲んだ時にするんです、“いびき”を。そして、時折止まるんです、“呼吸”が。気づ

いた時は、そのつど軽く体を揺すって起こすのですが、気づかないときは……。今はなるだけ横向きで寝てもらい、酒量も歳と共に減ってきてますが、やはり心配でした。なので、中央地区の花等さんからの誘いには、別にあった用事を日程変更して参加させてもらいました。

睡眠時無呼吸症には、欧米では“肥満・高齢・男性”がリスクが高いけれども、日本人は顔面骨格の形状が関係してやせ型でも起こりやすいという事でした。でも、受診し、口腔装具などを着ける事で気道が広がる事により、改善されるとわかりました。実際、装具を使い治療をされている県内のDrの治療についてのご苦労や裏話も興味深く聞かせていただきました。

また、歯科技工士の職域拡大をめぐる関係者の議論や当日参加の県の衛生士会会長の小野さんの臨床での技工士の役割についての期待、海外での臨床における技工士の役割や、日本では技工士法第20条が職域

拡大の足かせとなっている事など、とても考える事の多い研修会でした。

そして、第2部の由布川亭銀歯(関三千男先生)の「老婆の休日」という落語は、祖母、姑、そして今、80代の母との生活をしているわたしには、もう“あるある”で、少々苦笑いにもなりますが、楽しく聞かせていただきました。何事も、笑いのオチが一番だと思った研修会でした。

この会を企画準備の中央地区の女性部の皆様、ありがとうございました。



# 《山形県・山形市合同総合防災訓練》

橋本千香子(中央)

令和元年 8 月 31 日(土)午前 9 時より、山形市霞城公園・山形市立第七小学校地区にて、山形県・山形市合同総合防災訓練が約 1,700 名の参加で開催されました。歯科技工士会からは、中央地区から 2 名(平泉・橋本)参加しました。

山形盆地断層帯を震源地とする震度 6 強の地震が発生し、建物が崩壊して甚大な被害が出たとの想定のもと訓練が行われました。当日は天気も良く蒸し暑く、参加者は皆汗びっしょりでした。技工士会のブースは、県体育館の中で、歯科医師会と歯科衛生士会と共に身元確認訓練のコーナーの中にあり、ネーム・QRコード入り義歯の展示をしました。主に、看

護師や施設に勤務の方が、興味深そうに手に取って見てくださり、話をしたり質問を受けたりしました。歯科衛生士会によるデンタルリンスを使用したうがいの体験コーナーも好評で、私も体験させていただきました。そうこうしているうちに、警察の方によるご遺体役の搬入、歯科医師によるデンタルチャート作成が始まりました。すぐそばで見学することができ、貴重な体験になりました。最後に、総監の吉村美栄子山形県知事と佐藤孝弘山形市長が各ブースを視察に回られ、ネーム入り義歯など興味深そうに見ていただきました。

防災訓練に参加して、改めて日頃の訓練の大切さを思い知りました。些細な事でも体験しておく、いざという時に役に立つものだと思います。

